

中学で出張授業してきました。

「子どもたちが少年法の勉強をしているので、話しに来てもらえませんか？」

子どもと法・21に、中学校の先生からこんな依頼が入りました。そこでボランティアを名乗り出た(?)3人のメンバーで、12月14日、依頼があった都内のある中学校を訪ねました。

中3の「選択社会」の授業で、この日出席した生徒は10人。45分2コマの授業を受け持ち、石井さん、渡辺さんを中心に「少年法とは何か」について、わかりやすく話しました。

前回(2週間前)の授業では、少年法「改正」に「賛成」の立場から検事さんが話されたということで、今回は「反対」の立場からの話をという趣旨でした。

後日届いた、生徒さんたちの感想には、とまどいながらも「少年犯罪」「少年法」という問題に向き合って考えている、中学生らしい率直な思いが詰まっています。そのほぼ全文と、“授業した側”の渡辺さんの感想を併せて紹介します。

なお、随時、資料提供、出前講座等のご相談を受けています。ご希望の方、お気軽にご連絡下さい。

【中学生の感想】

私は少年法をきつくした方が良いと思っていました。それは、今まで被害者側から事件を見ることが多かったからだと思います。ニュースでも何でも、ほとんどが被害者がかわいそう、という内容だったと思います。しかし実際聞いてみると加害者の少年にも心の闇があったり、周りの環境が悪かったり、と必ずしも加害少年だけが悪いというわけではありませんでした。きつく、きつくしても少年犯罪が減るわけではないこともなんとなく理解できました。もしかしたら少年法はゆるくした方がよいのでは、と思いました。しかし、あまりゆるくしても今度は逆に増えてしまうのではないかと思います。なので私は「きつくする」より「ゆるくする」より、「今のままで」という考えです。

被害者側の話を聞けば少年法をきつく、加害者側の話を聞けばゆるく、と私は感情移入をしやすいのでそう思ってしまいました。実際加害者側はかわいそうな環境で育っていたり、同情の余地がたくさんありました。確かに殺人などの凶悪犯罪は起こしてしまった方が悪い、と強く思います。しかし世間に、悪いのは加害者の少年だけではない、ということを伝えていただきたいと思います。今のマスコミの伝え方では加害者だけが悪い、と思わざるをえないと感じます。被害者と加害者の立場を平等に、とは言いませんが、同等に扱ってほしいと薄い知識ながらも感じました。(中3女子)

加害者のほとんどが幸せではないから犯罪を起こしたというなら、少年犯罪は家庭のせいでもあると思った。少年犯罪を起こした少年を大人はよく批判するが、大人も悪いような気がする。加害者と被害者と両方のケアも必要だと思った。でも両方納得する法など作れないので、しょうがないとも感じる。

なかなか難しい内容だった。今まで、少年犯罪が増えて、凶悪犯罪が増えていると思ったのに、グラフを見ると減っているのが意外だった。もっと自分の目で犯罪を見てみたいと思う。(中3女子)

私は先々週のお話と今日のお話を聞いて、少年法について分かりました。被害者から見れば、今日のお話は「こっちの気持ちを考えてみる」と思うだろうし、加害者の少年からしたら、自分はどうでもいいと思っている人も多いので、刑を重くするだけでは余計そうになってしまうので、被害者と少年が話し合うのが一番良いと思いました。被害者に少年の環境などを話したりして、少年の心を直し、少年が本当に反省し、被害者に理解させることが大切だと思いました。

少年犯罪の原因についてよく分かりました。少年法は、少年を健全育成させるためのものだということが分かり、家庭環境の大切さなどがよく分かりました。少年の心を直すのは難しいことだと思い

ますが、犯罪をしている少年も、被害者も両方とも悲しい思いをしていると思い、そういう社会は悲しいと思いました。その少年が、一人の人として自分を大切に思える心がしっかりと持てるように、少年法をしっかりとしてほしいと思いました。少年と被害者の心がつり合う社会になるように、少しでも多くの人が考えるべきだと思いました。(中3女子)

実際起きている事件数と、報道されている数が違うという話に驚いた。統計の操作が行われていたら誰一人として本当のことを分かる人はいないんじゃないかという疑問が浮かんだ。今回のお話を聞いて、今の少年法の良い面を見れて良かった。(中3男子)

少年犯罪はやった本人だけ悪いわけではないと思う。その少年、少女の人生の背景(例えば親とか、生活とか)が少年犯罪を増やしていると思う。少年犯罪の流れを直すのは難しいと思う。(中3男子)

今日のお話を聞いて、色々な考えを知ることができました。前は「健全育成だけではやってはいけない」ということで、社会の安全性とのバランスを考えて改正する、という考えでした。前は「たしかにそうだな」と思い、子どもを甘やかすことはせず少年法改正の考えに賛成でした。けれど、凶悪犯罪が増えているわけではなく、低年齢化しているわけでもないのを初めて知り、また厳罰化すれば解決するわけではないという話を聞いて「なるほど」と思いました。はじめから犯罪をする人はいません。今必要なことは、子どもたちを厳罰化によって苦しめるのではなく、子ども(加害者)の教育・福祉を充実させること、という考え方にはとても納得させられました。それで多くの加害者の子どもたちは救われるかもしれませんが、悪用して犯罪を起こす子どももいるような気もしたので、難しいなと思いました。

今日、お話を伺って新たに色々なことを知れてよかったです。また前回とは異なる考え方で、とても興味深いものでした。マスコミがあおる報道、凶悪化・急増・低年齢化は決してしていない、という事実を知ることが出来ました。前回と今回のお話で色々な事実・考え方を知ることが出来ました。結局、どちらの考えも納得でき、どちらが正しいというのは決められませんでした。しかし、これからも関心を持っていきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。(中3女子)

ここまでお話を聞いてから言うのはとても申し訳ないと思うけれど、やっぱり私はどうして保護主義なのか納得できませんでした。というのは、少年にとって一般の法律より少年法を適用する方が良いことは理解できるし、お金で解決できる問題なら良いけれど、例えば殺人の場合、殺された人にもその人を大事に思う家族がいて、その加害者の少年が更生すれば良いとは決して思えないと思います。

私は今回のお話を聞いて少年法の目的は分かったけど、これが誰のためにある法律なのかとても気になりました。たぶん社会か加害者にある気がするけど、今の状態では被害者への配慮が少なすぎて、加害者の少年が立ち直るためなら被害者の命が無くなっても良い(言い過ぎだけど)ように聞こえてしまいました。でも今までは犯罪を犯す少年はただただ心が弱いんだと決めつけていたけれど、置かれている状況が私とは違いすぎて想像できない部分があったことを知ることができたので良かったです。

私たち数人のために3人もの方がお話に来てくれて、とても貴重な経験ができたと思います。私はどちらかという厳罰化に賛成の意見を持っていますが、今回お話をしてくれた方々はみんなどちらかという甘くしよう(・・・という誤解があると言われてしまうかもしれませんが)という考えを持っていたので賛成できる点ばかりではなかったけれど、自分の意見をしっかりとした団体で活動している人に聞いてもらったのはとても良かったと思います。これからもこういう機会をたくさん設けてもらえればうれしいです。(中3女子)

「常識」というのは当てにならないし、信じてばかりではいけないことが良く分かった。犯罪を犯してしまう少年について、その少年だけが悪いわけではないことが多い。家庭・学校での環境に左右される部分が大きく、厳罰化で片付けられる問題ではない。しかし、被害者の権利保障も大切にしな

いといけない。また、報道が先行する社会も問題であると思った。正しくない情報を植え付け、いたずらに加害者を責めることは良くないのではないか。これらの問題が社会で迷走していることは明らかであることから、何らかの策が必要だ。(中3男子)

前回までは、犯罪少年なんか普通の人ではやり得ない事をやるんだから、厳しく罰しちゃえばいいのに！！って思っていたけど、そんなに悪いわけじゃないんだなと思いました。でも、立場の違う人々から、様々な説明をされると、あまり知らない分野だから、すくなびいちゃいます。

少年犯罪って、世間ではすごく深刻なものにしていて、実際そういうのもあるけど、自転車(の窃盗)とか、かなりのこじつけもあって、けっこう適当にやってるのかと思います。違うことかもしれないけど、こんなちょっとしたことも事件として数えて少年犯罪の数を増やして、何がやりたいんだらう？って思います。世間は、犯罪を無くそうとか、表ではみんなが協力しようとしているみたいに見えるけど、結局、職を持って生きていて、お金をつくって自分と家族が大切なんだから、裏ではおもしろがって、からかう気持ち半分報道をするから、警察でさえ、何のためにあるのだらう？ってなんかがっかりします。(中3女子)

中学校訪問記

渡辺 演久(大学院生)

初めての中学校での授業に私たち三人のほう緊張気味でした。事前に頂いていた質問にわかりやすく答えることができるのか？興味をもってもらえるにはどんなことからまず話し始めればいいのか？などなど生徒よりも緊張気味の三人でした。

しかし、教室へ入るなり、「こんにちは」の明るい挨拶で心配は吹き飛びました。とても明るい雰囲気活発に授業ができそうな予感。ちょうど、親への加害事件やいじめが原因の自殺が相次いで報道されていたということもあり、少年事件や学校の問題に興味があったようです。特に奈良の放火事件や板橋の爆破事件などに関心があったようです。身近な問題として非行を考えようと思っている様子でした。

印象的だったのは、自分の状況と親への加害事件をきっかけに非行を考えようとしている姿でした。大半の子が親に「勉強しなさい」と言われたり、成績のことをとやかく言われるのが嫌だということ。(そういえば自分も中学生の頃はテストの点とか通知表にビクビクしてたっけ……。親も子どもも受験が一番の心配ごとだから。)自分にも非があることは分かっているのだから、もう少し言い方を変えて欲しいと思っていると。親子関係や家庭の問題を切り口に非行について考えようという姿勢です。彼らの感想文にもその点が見受けられるし、私たちの思いも少しずつ伝わってるなと感じました。

もう一つ印象に残ったのは、統計について。これは自分で資料を作っていたのだけれど、ちょっと難しかったかな？と授業当日は思いました。しかし感想を見てびっくり。みんなきちんと資料を読みこなしてくれています。情報を見るとき、ちょっと立ち止まって客観的に見てみようという意図が伝わったようでうれしいです。

こうした出前授業のいい点は、おとなの私たちがすごく勉強になるんですよね。イマドキの中学生の発想はどんなだらう？、実際に学校はどうなっているんだらう？、子どもたちの視点では？ということが実感できてとても楽しかったです。子どもたちを取り巻く法制度は子どもの視点がすごく大切だなと改めて思った一日でした。またの機会が楽しみです。